



映畫界

東洋の母

十三日より世界館

梗概 歐洲航路の三等船室には私生児を抱へた香港歸りのおさと其友人おしまが居た。一等船客には實業家大村、高木も居た。大村は船長安川の世話で私生児を貰ひ受けた。おさとして幾年かは経過した。大村家には大學生健を始め實子寛一、妹静子があつた。高木の良い健、豊、寛一等は何時

い巡り合ひ。或日匪賊が襲來した。一人の老人が匪賊の彈に倒れた。それは大村其人であつた。親子の死の對面を越へて奮起する健と寛一。だがその事業は計らずも郷島の横やりで中止されんとした。激怒した健は急ぎ東京へ歸りた。健は無罪を宣告された。遂に満洲の風雲急進軍ラッパは響く。健、豊、寛一等の勇ましい出征。健の母おさこの強い母性愛が何時までもこの行軍を見守つてゐた。

法廷―其處には義父を殺された豊が辯護士席に立つてゐた。國家觀念の強い健を今日まで見守つて來た傍聴席のおさとを指しながらの大辯論。遂に健は無罪を宣告された。満洲の風雲急進軍ラッパは響く。健、豊、寛一等の勇ましい出征。健の母おさこの強い母性愛が何時までもこの行軍を見守つてゐた。

大村は富豪内藤を動かして、高木は富豪守谷を動かして夫々その敷設権をもつた。大村は其の爲に健と静子の戀愛を利用したが正義觀の強い健は妙子とあきらめつてゐる。失戀のため熱病に罹つてゐる豊と妙子を結婚せしめた。健は悔みをバーにまぎらした。其處にはじつと見守つて居る母があるとも知らずに郷島の權利は遂に高木へ渡つた。大村銀行は取付に合つた。大村銀行の重役會議は株券偽造を知つた健の怒り寛一の心配。そして寛一は自ら株券偽造の責を被て行衛不明となつた。大村も亦遺書を殘して姿を消した。殘された夫人と静子。健は友人山田と其妹レヅノにガールをまぎらしてゐた。折しもアパートに健を訪ねたのは安川とおさととおしまであつた。其後高木は腦溢血で倒れた。おしまは權は豊と妙子に渡された。おしまは内藤と結婚した。おしまは子に敢然奮起した健は静一路救済事業へ。廣くは其の滿洲平原。募集された苦力が續々集つて來ると聞かすも其中に寛一がゐた。兄弟の怒し

折詰法造 平町一丁目(電話一四一五番) 新發明 透明障子紙 福島、茨城 宮城、栃木 四縣下一手販賣 伊勢屋 發賣元 阿部商店 電話四五番

耳鼻咽喉科専門 山内醫院 平町田町(電六九一) 病室完備 自炊ノ便アリ 醫學士 山内亨吉

池坊 立華生花大會 池坊龍生派石城郡支部設置第一回大會を左の如く開催致します。 一、日時 九月十四日、十五日二日間 毎日午前九時より午後九時迄 二、會場 マルトモホール階上 一、入場無料 主催 池坊 龍生派 石城郡支部

流行ノ下駄ト草履ハ 南町 三井ハキモノ店 小僧サン入用

内科 川井内科診療所 平南町(電二四三番) 川井安子

耳鼻咽喉科専門 鈴木醫院 醫學士 鈴木正男 平町田町(電話五八番) 藤田女學校前

藤沼醫院 平町 紺屋町 電話平四七

產婦人科 院長 木村寅次郎 醫學博士 內木宗八 藥劑師 立蕃彌一 平町新川町十九 木村病院 電話一六四番

平町の株式店 角治商店 東京株式取引所 短期取引員 電話茅場66(三三三) 三三五 三三六 三三七 三三八 三三九 三四〇 三四一 三四二 三四三 三四四 三四五 三四六 三四七 三四八 三四九 三五十 三五一 三五二 三五三 三五四 三五五 三五六 三五七 三五八 三五九 三六〇 三六一 三六二 三六三 三六四 三六五 三六六 三六七 三六八 三六九 三七〇 三七一 三七二 三七三 三七四 三七五 三七六 三七七 三七八 三七九 三八〇 三八一 三八二 三八三 三八四 三八五 三八六 三八七 三八八 三八九 三九〇 三九一 三九二 三九三 三九四 三九五 三九六 三九七 三九八 三九九 四〇〇

蓄膿症 快鼻湯 本劑は幾多の藥劑ありと雖も他藥の及ばざる良藥であります。左之病症の方は一時も早く服用され病苦を去られよ。 蓄膿症、慢性急性鼻加答兒、鼻汁多加症、頭重、肥厚性鼻炎に靈効あり。 其他鼻骨彎曲症、並に中耳炎に偉大なる神効ありと賞賛されて居ります。 警城國平町一丁目 水野藥局 責任製劑者 藥劑師 水野清一 電話六九九番